

おおたま

2022

No. 124

令和4年2月発行



鬼を退治するぞー!! (大山幼稚園)



大玉村は「日本で最も美しい村」
連合に加盟しています。

「村民の声を聴く会」開催	住民の声を村政に	……………	P 2～P 3
12月定例会開催	……………		P 4～P 6
一般質問	ここが聞きたい！ 9人の議員が登壇	……………	P 7～P 15
常任委員会が取り組む調査	……………		P 16～P 17
明日を担う新成人に聞きました！ 新成人の声	……………		P 18

昼の部

住民の声を村政に

大玉村議会「村民の声を聴く会」開催

11月6日(土)に「村民の声を聴く会」を大玉村農村環境改善センターにおいて昼と夜の2回に分けて開催しました。昼の部は9名、夜の部は5名の方に参加いただきました。

「これからの村づくりを考える」をテーマに、1 農業・商工業、2 子育てと教育、3 くらしと健康、4 環境と景観について、幅広い視点から意見や要望をいただきました。

今後は、意見や要望が村政にどのように反映できるか議会もしっかり議論し、調査研究していきます。さらに議員一丸となり議会活動に生かしていきます。

「村民の声を聴く会」の声は次のとおりです。

主な意見

1 農業・商工業

① 米価が大幅に下落し、農家の経営に影響を及ぼしている。耕作意欲を

失わずに営農が継続できるよう村が助成して欲しい。

② やむを得ず耕作放棄地になっている実態がある。家庭菜園として貸し出して欲しいとの声もある。耕作放棄地の解消に向けた仕組みづくりなどに農業振興公社が取り組んで欲しい。

③ 安全に水田耕作ができるように農道を整備して欲しい。

④ 新型コロナウイルスの影響による商工業者の支援は、事前に事業者には話を聞いてから決定して欲しい。

2 子育てと教育

① 食品添加物や農薬が少ない食品を食べさせたい。保育所の給食や幼稚園の預かり保育のおやつを見直して欲しい。

② 村内産の野菜で子どもたちが育つような地産地消の取り組みを増やして欲しい。

③ 地域住民が学校を支援する取り組みも大事であるが、保護者がより学校に関われる取り組みを進めて欲しい。

3 くらしと健康

① 高齢者の一人暮らしや老々世帯が増え、共同作業が成り立たなくなっている地域が出ている。老々介護や空き家、集落のあり方など課題解決に向けたプロジェクトを立ち上げ、取り組んで欲しい。

4 環境と景観

① 道路にゴミが捨てられ、歩道や通学路の草刈りがされずに、刈った歩道の草が撤去されない状況を解決して欲しい。

② 定期的に河川整備をして欲しい。

③ 行政区の組により作業時間に隔たりがあるため、3月、10月の一斉美化活動、7月のクリーンアップ作戦を担当する部署において区域割りや作業内容の見直しをして欲しい。

④ 「ふれあい村民の森」の環境を整備し、利用促進を図って欲しい。

⑤ 安達太良山麓の森林資源の活用を検討して欲しい。

夜の部

5 その他

- ① 充て職の会議が多い。できるだけ充て職をやめる見直しが必要ではないか。
- ② パブリックコメントやアンケートを出しても、参考にするだけでは、村政への関心が薄れる。若い人も村政に興味をもてるような機会を検討して欲しい。

議会に求める

「村民の声を聴く会」の意見

「村民の声を聴く会」では、議員に求める意見もいただきました。

主な意見

- ① 米価下落で苦しい農家の現状をはじめ、耕作放棄地が増え、重機が放置されている村内の状況を受け止めて、議員自らが行動をして欲しい。
- ② 「村民の声を聴く会」のあり方を検討すべきである。
- ③ 一般質問は、議員の得意分野だけでなく、視点を变えて他の分野にも挑戦して欲しい。

議会はこれからどう動く

「村民の声を聴く会」の意見を全議員で共有するために、12月21日(火)に現地確認を行いました。



安達太良ドリームライン (12月21日)

村の基幹産業である農業をはじめ村民が誇りとする景観を守り、子どもから高齢者まで安心して健康に暮らすことができるように、全議員で課題を共有し、常任委員会を中心に調査研究を進め、議会全体で提言していきます。

貴重な意見を村政に

12月21日(火)に議長、副議長3委員長が村長室において、「村民の声を聴く会」の意見・要望を村長、副村長に提出しました。「貴重なご意見です。皆さまでの声を受け止め、施策に反映できるよう取り組んでいきたい。」と村長に求めました。

村長からは「これまでに取り組んでいる事業をさらに進め、皆さまにご理解いただけるよう努めたい。財源確保も含め、鋭意検討していきたい。」と回答がありました。



支援交付金など

一般会計補正 1億599万円

12月定例会開催

12月定例会は、7日から10日までの4日間の会期で開かれました。
内容は、村長提出案件9件（条例制定1件、条例改正3件、補正予算5件）が
提出され、審議した結果、原案どおり可決しました。

令和3年度 12月補正予算

会 計 名	補 正 額	総 額
一般会計	1億 599万円	55億7,036万円
国民健康保険特別会計	4,121万円	9億5,437万円
農業集落排水事業特別会計	—	1億1,953万円
介護保険特別特会【保険事業勘定】	15万円	7億9,718万円
水道事業会計【収益的支出】	2万円	1億5,053万円

※農業集落排水事業特別会計は、予備費等の歳出予算額を調整し、予算総額は増減なし。

一 般 会 計

【歳出 主なもの】

○新型コロナウイルスワクチン接種に要する経費	1,111万円
○高齢者インフルエンザワクチン接種業務委託料	255万円
○妊婦インフルエンザワクチン接種費用助成	10万円
○障がい者自立支援給付金	1,004万円
○障がい児給付金	1,854万円
○稲作経営持続化支援交付金	4,195万円
○災害復旧費	2,100万円



10月臨時会 議決結果

議案番号	議 案 名	結 果
議案第67号	令和3年度大玉村一般会計補正予算について	原案可決
議案第68号	令和3年度大作田1号線災害復旧工事請負契約について	原案可決
議員発議第7号	コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書について	原案可決

11月臨時会 議決結果

議案番号	議 案 名	結 果
議案第69号	令和3年度大玉村一般会計補正予算の専決処分の承認を求めることについて	原案可決
議案第70号	大玉村議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第71号	村長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第72号	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第73号	大玉村一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決

12月定例会 議決結果

議案番号	議 案 名	結 果
議案第74号	福島県特定事業活動振興計画に基づく村税の特例に関する条例の制定について	原案可決
議案第75号	大玉村税特別措置条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第76号	大玉村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第77号	大玉村国民健康保険条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第78号	令和3年度大玉村一般会計補正予算について	原案可決
議案第79号	令和3年度大玉村国民健康保険特別会計補正予算について	原案可決
議案第80号	令和3年度大玉村農業集落排水事業特別会計補正予算について	原案可決
議案第81号	令和3年度大玉村介護保険特別会計補正予算について	原案可決
議案第82号	令和3年度大玉村水道事業会計補正予算について	原案可決

意 見 書	提 出 先
コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書について	衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、財務大臣、総務大臣、経済産業大臣、経済再生担当大臣

※意見書とは…地方公共団体の公益に関することについて、議会の意思を意見としてまとめたもの。地方自治法第99条には、「地方自治体の議会は、当該普通公共団体の公益に関する事件につき意見書を国会又は関係行政庁に提出することができる」と規定されている。具体的には、議員が発議して本会議にはかり、議長名で関係機関に提出する。



12月定例会では9日、10日の2日間にわたり、9人の議員が一般質問を行いました。質問と答弁を要約した内容は、質問順に7ページから15ページです。

わたなべ けいこ 渡邊 啓子	1. 婚活支援に注力を 2. 交通弱者に寄り添った支援を求める	7ページ
おしやま よしのり 押山 義則	1. 農家支援の必要性和支援の制度化を	8ページ
さいとう しんいち 斎藤 信一	1. 子どもたちを取り巻く環境について	9ページ
まつもと のほる 松本 昇	1. 大山地区に保育所の設置を求める 2. 地域と村の発展のため、早期着工を	10ページ
たけだ えつこ 武田 悦子	1. コロナ禍での農業・商工業への支援充実を求める 2. より充実した福祉への取り組みを	11ページ
ほんた やすお 本多 保夫	1. 村道の補修について 2. 遊休農地対策について	12ページ
すずき やすひろ 鈴木 康広	1. 学校のコロナ感染対策の継続的な対応を求める 2. 米価下落で苦しむ農家への支援を求める	13ページ
きくち あつり 菊地 厚徳	1. 村の農畜林業の方向性を改めて問う	14ページ
さわら さゆり 佐原佐百合	1. 自治体 DX 推進の対応は 2. 村民に伝わる情報発信のあり方は	15ページ

※一般質問…議員が村行財政全般にわたって、村に対し説明を求めまたは所信をたずること。大玉村議会の一般質問は一人30分以内で、答弁時間は含まない。

一般質問

ここが聞きたい!!

9人の議員が登壇



婚活支援に注力を

質問趣旨

コロナ禍で婚活事業がストップしたままである。
コロナ禍でもできる支援を考えていくことが必要だ。

【渡邊】

令和2年2月に

大玉村世話やき人セミナーが開催され、世話やき人の募集が行われたがコロナ禍で中断されている。新たに世話やき人セミナーを開催し、世話やき人制度を軌道に乗せることが必要ではないか。

【総務部長】

コロナの感

染状況を見定めながら令和4年度のセミナー開催を慎重に判断していきたい。

【渡邊】

大玉村主催の婚活イベントを待ち望む声がある。手紙やZoomによる婚活支援を実施している市町村もある。今後の婚活事業をどのように考えているのか。

【総務部長】

村外からの

参加者募集が重要になる。感染状況を見定めながら婚活イベントの開催を慎重に検討し、令和4年度の実施に向けた準備を進めていきたい。

【渡邊】

県の婚活支援シ

ステム「はぴ福なび」の入会登録料2年間で1万円の半額または全額を補助している市町村がある。本村でも補助することができないか。

【総務部長】

近隣の状況

も見ながら前向きに検討したい。

【渡邊】

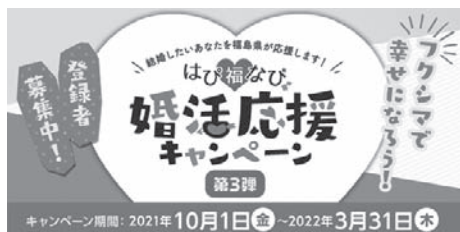
出合いの機会を

増やすため村の婚活事業と県の「はぴ福なび」の二本立てで婚活を応援し、一人でも多くの方の希望がかなうよう婚活支援に力を注いでもらいたい。

【村長】

婚活事業は対面

での実施が良いと思う。コロナが落ち着いた時点で再開したい。



県の婚活支援システム（はぴ福なび）

交通弱者に寄り添った支援を求める

質問趣旨

運転免許証自主返納支援事業をもっと住民が利用しやすいものにつ

【渡邊】

運転免許証の自

主返納者数と「たまちゃん（デマンド）タクシー」の利用状況を伺う。

【住民生活課長】

返納者

は平成30年度25名、1人当たりの利用回数は13回、令和元年度36名で16回、令和2年度22名で7回である。今年度は11月末時点で19名、1人当たり5回の利用であり、コロナの影響も考えられる。

【渡邊】

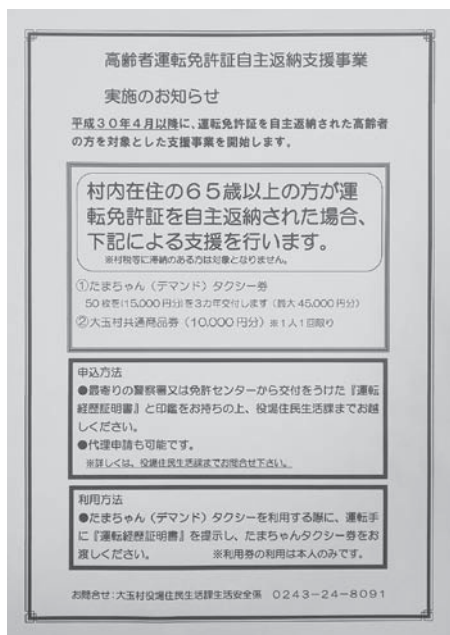
デマンドタク

シーは行ける場所に制限がある。デマンドタクシー利用券かタクシー券のどちらか希望する方を選べるようにしてはどうか。

【住民生活課長】

デマン

ドタクシーと同じ支援額ではタクシー券は利用できる回数が少なくなり、返納者の移動手段の支援



としてはあまり意味のないものとなってしま

【渡邊】

利用できる回数

が少なくなってもタクシー券の方が良い人もいるのではない

【住民生活課長】

慎重に

検討を進めていきたい。運転免許証を返納した場合、返納者の車

に乘せてもらっていた家族も同時に移動手段を失う。利用券を返納者本人のみではなく、その家族も利用できるシステムに変更することはできない

【住民生活課長】

利用対

象者の範囲については、今後検討していきたい。



一般質問

農家支援の必要性和支援の制度化を

質問趣旨

米価の低迷で、改めて農家支援の必要性、支援内容の充実が求められる。早急な支援体制の確立を。

押し山 平成26年にも米価下落状況があり、支援金交付があった。当時の状況を伺うとともに支援策の効果は。

村長 政策的なものであり、各団体と協議して決めるものではない。財政的なことも考えながら、来年度以降も不透明な中で最大限の数値を出している。

押し山 支援額の決定にあたっては、農業委員会や関係団体との調整や話し合いは行われたのか。

村長 政策的なものであり、各団体と協議して決めるものではない。財政的なことも考えながら、来年度以降も不透明な中で最大限の数値を出している。

押し山 今年度の稲作の現状、米価の下落対策の検討状況、支援策を伺う。

産業建設部長 県の作況指数は101で平年並みの作柄状況である。米価の取引状況は中通りのコシヒカリ60キログラム、11617円と前年比1659円の下落である。経営の持続化、次期作支援として主食用米及び備蓄用米の作付面積10ヘクタール当たり5000円の支援金を12月中旬に交付開始ができるように進めている。

押し山 収入保険制度のメリットとデメリットを伺う。また村内の対象農家数、加入状況は。

産業建設部長 コシヒカリ一等米30キログラムの概算金は今年度が4150円、平成26年は4000円で、それ以来の低い水準である。平成26年度は主食用米を対象に作付面積10ヘクタール当たり2000円の支援金を交付した。また、県、JAは、次期作支援として種子代の助成を行った。翌年からの農業機械共同利用整備事業と併せて営農の継続に一定の効果があつたと考えている。

押し山 収入保険制度のメリットとデメリットを伺う。また村内の対象農家数、加入状況は。

産業建設部長 米価下落は経営規模の大きい農家ほど影響がある。収入保険はあらゆるリスクに備えることができるのがメリットと考えている。デメリットは保険料、事務費、積立金が負担になるが、国等の補助もあり、村も保険料や事務費の20%を補助して加入促進を図っている。青色申告をしている農業所得者75件のうち、収入保険に

加入しているのは17件である。

押し山 農業振興公社設立にあたり、兼業農家育成や日曜農業継続のためにカントリーエレベーターの建設を営農支援として考えられないか。

産業建設部長 農業振興公社の事業内容として農地の集積、作業の受委託、農地の維持活用、後継者の育成、兼業農家等の持続化支援等がある。カントリーエレベーターは、将来を見通したときに検討の必要性を十分に感じている。JAや関係機関と連携しながら、国・県の補助等の調査を含め検討していきたい。

他に次の質問がありました。

- ・役場職員の服務体制規範の徹底と処分等の透明化を求める
- ・3年保育4年目の幼稚園の成果と課題を検証する



議会によるカントリーエレベーターの視察（乾燥貯蔵タンク内）

斎藤 信一 議員



子どもたちを取り巻く環境について

質問趣旨

毎日通る通学路の環境改善と次世代を担う子どもたちの食育について考える。

斎藤

村道宮下・高久線（プラント西側出入口付近）の通学路は、下校時大型トラックの路上駐車により見通しが悪く安全とは言えない。過去には、交通法規を守る児童が運転者に恫喝された事例もある。横断歩道設置の必要性を伺う。

住民生活課長

当該箇所の横断歩道設置の必要性は、十分に認識している。地元からの要望書が平成30年に提出されている。道路交通法により横断歩道は、公安委員会が設置することになっており、大玉村交通対策協議会を通して県の公安委員会に引き続き強く要望していく。

斎藤

大山小学校谷地地区のボックスカルバート内は、狭い道幅に車線分離のポールを立て無理やり歩道を設置している。走行車両との距離は、数十センチと大変危険である。村の考えを伺う。

産業建設部長

大山小学校からの要望を受け、大玉村通学

路安全推進会議で、現場を確認し、対策を検討してきた。カルバートの拡

幅は、長期間の工事や費用の点から現時点では難しい。当該箇所に防護柵として、連続基礎型のガードレールを設置し、子どもたちの安全を確保していく。

斎藤

11区の一般県道須賀川・二本松線や主要地方道本宮・土湯温泉線等の歩道のない場所を通り、プラントやコンビニに自転車や徒歩で買い物に行く人が大勢いる。このような緊急性の高い場



横断歩道設置が望まれる通学路

所の歩道整備の考えを伺う。

産業建設部長

県道の道路管理者である福島県をはじめ、大玉村を管轄する県北建設事務所と村の事業調整会議でも必要性を強く要望している。今後通学路や生活道路の歩道設置をしっかりと要望していく。

斎藤

保護者からは、幼稚園の給食化に強い要望がある。教育計画の行事として「野菜汁の日」を年に数回実施することができないか伺う。

教育長

給食は困難であるが、幼稚園の行事等に合わせ年に数回、汁物等を保護者やボランティアの協力を得て実施していくのは可能なので、今後検討していきたい。



カルバート内の危険な歩道



「野菜汁の日」で食育を

斎藤

本村は健康長寿・食育の推進に取り組んでいるが、保育所、幼稚園の預かり保育、放課後児童クラブでは塩分や糖分の多いおやつを提供している。保健師は、幼少期から甘いお菓子や味の強いものを与えるのは虫歯や偏食につながるもので良くないと指導している。改善する考えは。

健康福祉課長

すべての年代に対して一律に良くないわけではなく、年齢に配慮したおやつを提供している。また、年齢に応じた歯磨きの指導も行っている。

斎藤

おやつイコール食品を提供できないのか。村長 人数が多く、毎日のことなので、子どもが好むものを選ぶ傾向がある。調理施設等の問題もあり、手づくりのものは提供できない。子どもたちにどういうものが良いのか今後考えていきたい。



おやつにもなる野菜の天ぷら



大山地区に保育所の設置を求める

質問趣旨

より安心して子育てができるように、大山地区に保育所の設置を提案する。

松本 4月から大玉村保育所の管理・運営が大玉村社会福祉協議会へ移管されたが、運営状況を伺う。

健康福祉課長 移管による状況変化を極力抑えるため、保育士の村から派遣するなど、保育の継続性の確保に努めている。また、新型コロナウイルス感染症防止対策を行う等保育環境の整備を進め、安心して子どもたちが通所できるようなスムーズな運営に努めている。

松本 移管前と比較して改善された点は。また管理・運営での今後の課題を伺う。

健康福祉課長 村の会計年度任用職員から社会福祉協議会職員となったことで多くの職員の雇用が安定した。今後は少子



社会福祉協議会が管理・運営する大玉村保育所

化により慢性的な定員割れが予想されるとともに、老朽化に伴う建物の計画的な改修が課題となる。

松本 大山地区の保護者の利便性、さらに安全な保育を行うために、大山地区に保育所の設置計画はないか伺う。

村長 大きな市と比べれば大玉村は近距離に保育所があると考えている。新たに保育所を建設すれば建設費・運営費など莫大な予算を必要とする。保育料の無償化や、駐車場の確保など、支援策の充実を今後も図っていき

地域と村の発展のため、早期着工を

質問趣旨

横堀平仮設住宅跡地の利用計画と（仮称）西部幹線横断道路整備事業の進捗状況を伺う。

松本 横堀平仮設住宅跡地の利用について、職員のプロジェクトチームによる検討と今後の利用計画を伺う。

総務部長 （仮称）おおたま再エネ・アグリパーク構想として、再生可能エネルギーである省水力や太陽光などで発電した電気や熱源を施設園芸で利用し、作物を栽培する。その施設で障がい者の雇用も考えていく。また再生可能エネルギーは子どもたちの環境教育の場として活用する。次年度以降、より詳細な基本構想策定のための財源確保に向け、現在補助金の事前相談を行っている。

松本 （仮称）西部幹線横断道路整備事業について、用地測量、用地費及び保障費の予算措置がなされたが、国の交付金も含めその後の進捗状況と

併せて着工等いつ頃に計画されているのか伺う。

産業建設部長 平成30年度に用地測量、令和元年度に補償調査、不動産鑑定、令和2年度に測量設計の補完業務を行って

いる。今年度は、道路用地の買収、売買契約事務を進めている。国の交付金を活用した事業なので現時点では断言できないが、令和4年度は約1000㍓の道路改良に着手し、令和7年度の工事完了に向け進めていきたい。



横堀平仮設住宅跡地

他に次の質問がありました。

令和3年度の米価下落による支援策を伺う



コロナ禍での農業・商工業への支援充実を求める

質問趣旨

新型コロナウイルス感染症や燃油高騰の影響はさまざまな産業に及んでいる。より充実した支援が必要ではないか。

武田 原発事故の影響、加えてコロナの影響が米の価格暴落につながっている。農家の減収はどのくらいになるのか。村の支援策は。下落が続けば継続した支援は考えているのか。

産業建設部長 生産者の手取りは10ア当たり、16200円の減収と見込んでいる。村支援策は、10ア当たり5000円を支援する。稲作経営計画書の面積を記載した請求書を稲作農家に送付し、確認書類の提出で手続きをしていく。

村長 価格低迷は今後も続くとは危惧している。同じような状況が続けば、支援したい。

武田 商工業者にとってもコロナの影響、燃油高騰の影響は大きい。影

響を把握しているのか。新たな支援策の考えは。

産業建設部長 商工会との意見交換などで状況は把握している。支援策は関係機関と十分に協議検討を進めていきたい。

武田 農業・商工業とも後継者の問題、事業承継が大きな課題となっている。村としても取り組むべきではないか。

産業建設部長 農業の担い手育成は農業振興公社を中心に取り組んでいきたい。商工業では、空き店舗の活用や事業承継希望者とのマッチングサイトの活用など県や関係機関と協議を進め、対策を講じたい。



価格低迷が続く米

より充実した福祉への取り組みを

質問趣旨

介護保険をはじめさまざまな事業が行われている。安心して暮らすためにより充実した施策が必要ではないか。

武田 燃油高騰が私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしている。以前、大玉村では福祉灯油助成事業が行われたが、今年も行うべきではないか。

健康福祉課長 燃油高騰で村民の負担は大きくなっている。国の対策も検討されており、財源も含め国の動向を見ながら検討したい。

武田 介護保険や後期高齢者医療制度など制度改定がたびたび行われているが、使いやすい制度とはなっていない。村長はどのように考えるか伺う。

村長 当初の制度設計とはかなりずれてきていると思う。対象の変更や利用者の負担増ではなく、財源を含め、見直しが必要ではないかと感じている。

武田 一人暮らしや老々世帯が増えている状況にある。相談援助機関である包括支援センターが社会福祉協議会に委託されているが、現在の体制では、増加が予想される業務に対応できなくなるのではないか。

村長 包括支援センターの業務が手いっぱいだということは聞いている。役場機構の変更も検討しているので、併せて増員が可能か考えたい。



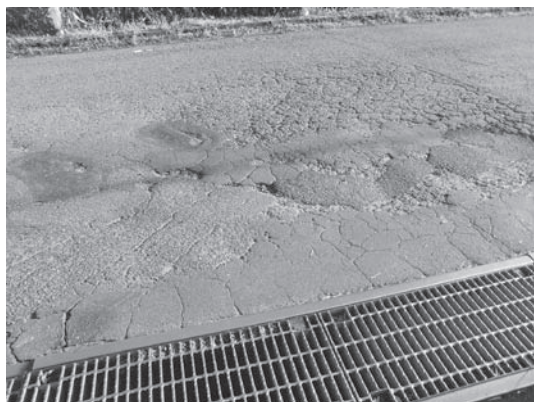
誰もが温もりのある生活ができるように

他に次の質問がありました。
・美しい村大玉村を作り上げることについて

村道の補修について

質問趣旨

山間部村道の損傷が激しいので補修計画を問う。



修繕が待たれる村道

本多 山間部路線の補修が遅れている傾向がある。補修も含め、補修計画を見直す考えはないか。

産業建設部長 補修を要する箇所の状況は、地理条件、交通量、気象等によって変動する。現在の村道補修は、路線調査

を策定し、補修を進めている。

産業建設部長 必要度の高い路線について路面性状調査をして舗装維持修繕計画を進めている。

本多 村道1、2級路線に比べると山間部路線の損傷が激しい。補修計画があるか伺う。

産業建設部長 白線塗布は道路補修と併せて実施している。特に通学路等は、外側線やカラー塗装等を実施し安全の確保を図っていききたい。道路パトロールや区長からの要望など村民の声を反映しながら年度ごとの箇所づけを行っていききたい。

の資料を基に行政区長の要望または道路パトロールの結果などを踏まえて、補修の箇所づけをし、年度ごとに行っている。

本多 事故防止の観点から年次計画を作り、白線を引く考えはあるか伺う。

産業建設部長 白線塗布は道路補修と併せて実施している。特に通学路等は、外側線やカラー塗装等を実施し安全の確保を図っていききたい。道路パトロールや区長からの要望など村民の声を反映しながら年度ごとの箇所づけを行っていききたい。

遊休農地対策について

質問趣旨

農地の利用をどのように進めていくのか問う。

本多 山間部は高齢化や耕作地の不便さ、米価の下落による遊休農地、耕作放棄地の増大が懸念されるが、対策は。

産業建設部長 令和2年度「おおたまエゴマの会」の作付面積は1・98畝、107万円の販売実績、今年度は1・66畝、

40万円の販売実績である。村としても、生産団体と協力しながら販売促進を図っていききたい。

本多 遊休農地対策、6次化事業としてえごまの商品化が行われている。えごまの作付面積、えごま油の販売実績は。今後の補助や販売体制を伺う。

村長 6次化の推奨団体として、支援や補助を検討していく。



6次化商品として販売されている「えごま油」



学校のコロナ感染対策の継続的な対応を求める

質問趣旨

教育現場の負担軽減のため、トイレの清掃の外部委託やスクールサポートスタッフ配置が継続して必要である。

鈴木

新型コロナウイルス

に、トイレ清掃は外部委託で行われているが、来年度も継続が必要だと考える。予算を含めた検討はされているのか。

教育部長

今後の感染状況を注視しながら、来年度実施の有無を検討したい。

鈴木

スクールサポート

スタッフの配置は、教育現場の負担軽減に重要な役割を担っている。来年度も人員の確保ができるのか。

教育長

コロナ前から

の国の事業で大玉村は配置の対象になっていないが、今後も村独自で配置し先生方の多忙化解消に努めていきたい。

鈴木

コロナ禍により

部活動にはどのような影響が出ているのか。

教育部長

国や県の対策に応じ、感染対策に工夫を図り実施している。

中学校の吹奏楽部は動画で審査を行う大会に出場し、動画撮影に使用した会場使用料と撮影料は公費で負担している。また、各大会出場の移動に要するバスの増台分の費用も公費で負担している。



米価下落で苦しむ農家への支援を求める

質問趣旨

米価下落で農家は大変な状況にある。村の基幹産業である農業を守るため、農業支援の充実と早急な対応を願う。

鈴木

水田経営継続の

ため、いち早い支援が必要と考える。内容と時期を伺う。

産業建設部長

村内の

農業者及び法人に、主食用米及び備蓄米の本年度の作付面積10アール当たり5000円を支援金として交付する。12月1日付で各農家に稲作経営持続化支援交付金の通知を発送した。一日も早く支援をするため準備を進めている。

鈴木

米価下落の状況

が続けば、今後も村単独の支援が必要と考える。大規模経営者の借入れの利子補給などを検討しているのか。

産業建設部長

利子補

給は県とJAが無利子で補給する令和3年度稲作経営安定資金の利用を案内したい。必要があれば村の利子補給等の支援策も検討していきたい。



豊かな実りを育む大地

鈴木

農業振興公社の

内容は、農家と意見交換を十分に行ったのか。

産業建設部長

コロナ

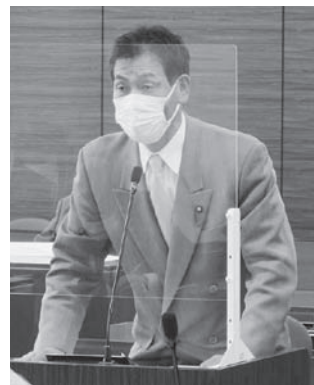
禍の影響により広範に農家の方々と直接的な意見交換

はできなかったが、各関係機関の代表者が委員となった設立検討委員会で振興公社として取り組むべき14項目をまとめた。

村の農畜林業の方向性を改めて問う

質問趣旨

地域に根ざした農業のあり方とは何か。本村の基幹産業である農畜林業の方向性と農業振興公社の役割を問う。



菊地 村で考えられる農家の所得向上対策を伺う。

産業建設部長 農産物のブランド化は有効な対策となる。ビニールハウス等の設置補助による施設栽培で、端境期だけでなく収穫期をずらして付加価値を高める方法を取っている。また、村内産米を福島大学の食農学類で、食味や土壌の分析と併せて微細構造分析調査を実施しブランド化を確立していくことで、大玉村の米と他の地域との差別化をアピールしていきたい。

菊地 国は2050年までに有機栽培の耕作面積の割合を25%にする目標を掲げている。農業振興公社で農家の支援策として考えられないか伺う。

産業建設部長 有機農業は環境にやさしい生産方法であるが、生産性の問題で農家に手間暇がかかるという現実がある。農業振興公社で技術の検証や実験と試験に取り組み、その結果を農家の皆

さんに技術と情報という形で還元したい。

菊地 佐渡島ではトキの保護を目的にJ Aと協力し無化学肥料の水稲栽培などが行われている。可能な地域で実施できないか。

産業建設部長 村内の水稲作付けは慣行栽培が主流であり、村を挙げて、あるいは地域的に無農薬栽培をするのは地域の方々の理解を得る必要がある。現時点での推進は難しい。

菊地 他国で使用が禁止されているネオニコチノイド系の農薬を使用していることについて考えを伺う。

産業建設部長 水稲のカメムシ防除が挙げられる。村では昨年、無人ヘリによるカメムシの共同防除の補助を色彩選別機利用の補助に切り替えた。国内で使用が認められている登録農薬の使用を禁止することはできないが、村が使用を推進するということもない。



住宅地と混在する水田

佐原佐百合 議員



自治体DX推進の対応は

質問趣旨

自治体DX[※]で、村民や行政がもっと便利になるのではないかと考える。



電子申請できるマイナポータルサイト

※DX（デジタル・トランスフォーメーション）：進化したデジタル技術で人々の生活をより良いものへと変革すること。

佐原 国が策定した「自治体DX推進計画」をどのように捉えて進めていくのか。

総務部長 国・県と連携しながら推進していかなければならないと認識している。しかし、本村の人口や財政の規模で、全て実施するのは困難である。国・県の情報や他自治体の事例を踏まえながら、効果も見極め検討したい。

佐原 行政手続きのオンライン化の現状は。

住民生活課長 児童手当手続きの一部はマイナンバーカードを利用したマイナポータルからオンライン申請を実施している。直接面談を要するものや証明書の即時発行など手続きの内容によって

は、電子申請に適さないものがある。順次、諸手続きのオンライン化を検討していきたい。

佐原 国は、自治体全体で足並みを揃え、着実に進めていくと明言している。DXを実現するため

に専門知識を持つデジタル人材の確保や育成が必要ではないか。

村長 国が行政システムを全国的に統一すると打ち出しているが、全然動いていない。動向を見ながら、一つ一つ検討し進めたい。

総務部長 小さな自治体ほど専門人材の確保は難しい。国・県からの支援や近隣市町村の動向を注視しながら取り組むたい。

村民に伝わる情報発信のあり方は

質問趣旨

情報が必要な人に届くように、各種媒体を選択できるような情報発信が必要だと考える。

佐原 情報発信のデジタル化が大きく進展した。本村のSNSの活用状況は。

総務部長 村の話題や各課からの情報提供、イベント告知、コロナ関連補助事業の周知、パブリックコメントなどで利用している。

佐原 役場に要望すれば「広報おたま」を郵送してもらえるという声を聞くが現状は。

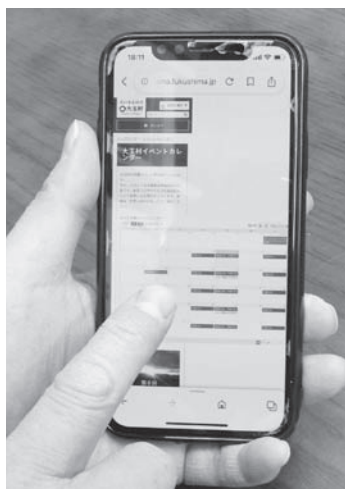
政策推進課長 現在は事情があつて組に入っていない方等に送付している。公式ホームページでも見ることができ、今年度はアンケート調査を実施した。今後調査結果に基づき整理していきたい。

佐原 回覧板やチラシによる周知の効果は。

総務部長 紙ベースで各家庭に届き、お知らせがスムーズに行われている。最も効果が高い周知方法と認識している。

佐原 村公式ホームページは、情報量が膨大なため、簡単に欲しい情報にたどり着くことが難しい。ホームページを見直す考えは。

総務部長 全面リニューアルに向け財源の確保を模索したが、該当する補助事業がない。職員がホームページ制作やSNSの基礎知識、具体的操作や活用方法を学ぶための研修を受講しており、ホームページの改良につながると考えている。



スマートフォンでも見やすいホームページに

常任委員会が取り組む調査

10月21日に常任委員会を開催し、所管事務調査を行いました。

調査した内容は、次のとおりです。今後も適正かつ効果的な事業執行を引き続き調査検証していきます。

総務文教常任委員会

調査項目

【総務部】

① 新たな公共交通システムのあり方の検討に関する進捗状況について

② 定住促進対策に係る事務事業の執行状況について

③ (仮称)地域交流センターの検討状況について

【教育部】

④ 小学校の教育課程について

⑤ 家庭教育支援活動に関する進捗状況について

調査概要

問 公共交通システムの集約・再編はどのようになっているのか。

答 10月現在までに会議を7回開催し、利用者へのアンケートや二本松市、本宮市へ村の考え方の説明を実施した。再編案を現在の3体系の公共交通システムを集約統合し、日中のデマンド

タクシーと朝夕の通勤通学バスとし、令和4年度から新体系での実証運行を実施していきたい。



定住促進対策事業の執行状況は。

答 今年度から、県外や県内からの移住者や多世代同居や近居、村内在住の方などが住宅を取得される場合の住宅取得支援事業補助制度を開始している。9月末現在で24件、820万円の申請となっており、現在も相談が多数あり、定住促進に一定の効果があった。空き家バンクの登録が進まないのは、近隣の市町村でも課題となっている。村では固定資産税の納付書を送付する際にチラシを同封しているが、今後も引き続き周知していきたい。

問

(仮称)地域交流センターの検討状況は。

答 現在発注方法について検討している。公民館機能と子育て支援センターを兼ね備えた施設であり、広く住民の方々の声を伺いながら使いやすい施設



をつくっていききたいという考え方から企画提案方式により業者を選定し、今後意見交換会等を重ね、住民の声を反映させた施設の建設を目指していきたい。

問 小学校の教育課程について

答 平成29年に「生きる力」をテーマに改訂された学習指導要領に従って、各学校で作成するその年の教育計画が教育課程である。新たに道徳や小学5・6年生の外国語が教科化された。村で定めている教育ビジョン、学習指導要領、国及び県の計画や先生方の意見も取り入れ学校教育指導を作成し、教育課程に反映している。



問

家庭教育支援活動とは。

答 家庭教育支援とは、親が安心感と自信をもって家庭で教育ができるように、子どもと共に成長する学びを支援することである。今年度から新たにコーディネーターを配置し、教育相談に関する組織の調査や学校の行事等をまとめている状況である。家庭教育支援チームを設置して来年度に向けて新たな企画・計画づくりを進めている。

総務文教常任委員会の意見

- ① 新たな公共交通システムの検討は、福祉バスの廃止や広域生活バスが減便となる中で、利用者へのサービスの水準が下がらないよう事業を進められたい。
- ② 定住促進対策は、補助制度を利用し住宅を建築された村民からの声があり、補助要件など具体的にわかりやすく説明したチラシを作成し、若い世代の人口流出の抑止、村外からの移住者の更なる増加のために引き続き努められたい。
- ③ (仮称) 地域交流センターは、子育て世代の方など多くの意見を取り入れ、村民から親しまれる施設の建設を望む。
- ④ 小学校の教育課程は、教科が増えており、子どもたちは帰宅しても自由な時間が少なくなっている。休み時間は確保し、子どもたちが自由に過ごせる時間となることを望む。
- ⑤ 家庭教育支援活動は、今後の会議の中で親の学びや子どもとのふれあいをどのように事業化していくべきか熟慮されたい。

産業厚生常任委員会

調査項目

【産業建設部・農業委員会】

- ① 本村における農業に関する施策及び支援について

調査概要

米のJA概算金が大幅に下落し、JA出荷が全体の7割程度を占める本村において農家の経営圧迫は深刻である。

問 米価下落により村が考えている農家への支援は。

答 主食用米、備蓄米の作付面積に応じた直接的な助成金を検討している。具体的な金額等は、次期作に間に合うようなるべく早期に提示したい。

問 兼業農家が今後も農業を継続できるための施策は。

答 兼業農家の役割は大きい。今の営農を支えているのにとどのような支援や枠組みが必要か検討していきたい。

問 4年度に設立を予定している農業振興公社の進捗状況は。

答 現時点では一般社団法人を考へており、構成員が集まって運営する方式であり理事会のみで運営が可能である等、大玉村に適した組織である。現在JAの参画について協議を進めているところで



あり、村とJAが出資する組織を想定し、理事会の構成は農業委員会や認定農業者・畜団連等、村の農畜林業に関わる組織を検討している。

問 農業振興公社は現在の村の農業法人等との共存はできるのか、競合する組織となるのではないのか。

答 共存はできるものと考えており、既存の法人や大きな農業経営だけではなく、中小の兼業農家も含めた方々のセーフティネットとなる役割を考えている。農業の相談を受けての仲介や作業委託等、共存共栄をする事業内容で検討している。また、耕作放棄地への試験的作物等の生産、新規就農等についても担っていければと考えている。



産業厚生常任委員会の意見

- ① 大幅な米価下落に対し、農家への直接的な助成及び来年の作付に向けた支援策を講じること。
- ② 大規模農家だけでなく、村の農業を支えている兼業農家に対する営農継続への支援枠組みについて検討すること。
- ③ 4年度に設立が予定される農業振興公社の事業の展開にあたっては、村内農業者との共存及び補完できる業務内容とする。

新成人の声



2021おおたま成人祭実行委員

菊地和香菜さん 渡辺優奈さん 鈴木右恭さん 鈴木颯さん
角田直樹さん 伊藤洋徳さん 熊田将人さん 石井海空さん 三瓶大介さん

新型コロナウイルス感染症拡大により延期となっていた成人式が1月10日に行われました。昨年の8月の成人祭に向けて企画をしてきた実行委員の皆さんは、仕切り直して準備を進めてきました。実行委員会の貴重な時間におじゃまして、実行委員の5人に大玉村についてインタビューしました。

大玉村といえば…

あだたらの里直売所

新成人 いちごを出荷する時に家族と一緒に直売所に行くことがあります。多くの人でにぎわっていますね。商品がたくさん揃っていて、また行きたくなる場所だと思います。

小姓内ポケットパーク

新成人 ポケットパークから見える田園風景が大好きです。安達太良山も含めての景観が有名なのは知りませんでした。安達太良山は毎日見ているので、意識して見たことがなかったです。一番手前が安達太良山かと思っていました(笑)

住みやすさ

新成人 大玉村は自然と街のバランスがとれていて、静かで住みやすい



です。都会に憧れ、一人暮らしをしてみたいけど、今は大玉村にいたいんです。もし離れたとしても、大好きな大玉村に戻りたいです。

温かい人柄

新成人 村民はとてもフレンドリーだと思います。近所も仲がいいし「おばんです」の声かけもあります。特におじいちゃんやおばあちゃん

は、気さくに「どこの孫だいな？」と聞いてくるので、親しみを感じます。コンビニのバイトの人にまで「どこの人だい」と話しかけています(笑)

移動手段

新成人 車で移動するには便利ですが、駅が近くにないので車がないと不便です。通学は家族に送迎してもらっているの

村の情報を得る手段

新成人 「議会だより」はあまり見ません。親が近所の人と話した内容を食事の時に聞かされるので、情報が勝手に耳に入ります。



大玉村に必要なもの

新成人

4号線周辺に子どもが遊べる遊具のある大きな広場や水辺で遊べる場所が欲しいです。ふくしま県民の森フォレストパークあだたらにジップライン(架け渡されたワイヤーロープを滑車で滑り降りる)で遊べる場所もあるといいなと思います。

将来の大玉村

新成人 「田舎」という言葉が大好きです。自然も人も今のままがいいです。残して欲しいし、変わらないで欲しいです。全国的に村が少なくなっています。村民であることに誇りを持っていきます。合併しないで欲しいです。

編集後記

山があり、川が流れ、豊かな自然の大玉村に我々は暮らしている。

議員の仕事は、皆さんが日々の生活に幸せを感じて元気に過ごせるようにすることだと思う。それを皆さんと一緒に考えて活動していきたい。

豊かさとは何だろう。作物が育つのは、水が形を変えながら何度も田畑を潤すからだ。自然界では水の循環が豊かさを支えている。ふるさとの大地と水と風の中で、生かされていることに感謝しようと思つた。(菊地 厚徳)

議会広報編集特別委員会

- 委員長 ● 佐原 百合
- 副委員長 ● 斎藤 信一
- 委員 ● 渡辺 啓子
- 委員 ● 菊地 厚徳
- 委員 ● 武田 悦子
- 委員 ● 押山 義則

議会だよりの表紙と村民の声インタビュー掲載にご協力くださるご家族を募集します。議会広報編集特別委員会までご連絡をお待ちしています。